

令和元年度 伊万里市立山代中学校 学校評価計画

<p>1 学校教育目標</p> <p>一人ひとりが自信と誇りをもち、いきいきと輝く生徒の育成</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>(1) 確かな学力の定着と向上                  (2) 開かれた学校をめざして、家庭・地域との連携                  (3) 豊かな人間性の育成、歌声あふれる学校をめざして                  (4) 生徒指導の充実                  (5) 健康・体づくり                  (6) 家庭教育力の向上                  (7) 小中連携の推進                  (8) 立腰教育の推進</p>
--	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む



3 目標・評価				
① 学力の向上ときめ細かていきいきとした生徒指導を目指す				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	教職員の資質向上	指導力の向上	全教師が年1回の研究授業を行う。そのうちの5回は全職員が参加する研究会を実施する。	西部型の授業視点を取り入れた授業に取り組み、講師も招聘して研究の充実を図る。
	教職員の資質向上	協力体制の確立	学校を組織体ととらえ、全体での自分の立場や役割を自覚し、自分の職務に専念する。	仕事の重要度ごとに優先順位をつける。学年・各部ごとの横の連携を密にする。
	学校・学級・教科経営	子どもの能力や努力に対する評価	全職員が、生徒のいいところ探しに努める。	生徒の善行の紹介などを帰りの放送の時間や通信等を利用して校内外に知らせる。週末(金曜日)の職員集会を確実に実施する。
	●志を高める教育	○夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	生徒一人ひとりが具体的に自分の夢を描き、その実現に向けた現在(いま)を考えるキャリア教育の実践。	道徳科と学級活動、総合的な学習の時間を有機的に関連付けたユニット学習を仕組む。
教育活動	●学力向上	学習内容の理解	全教科で市共通テスト平均を上回る。	授業の工夫・改善に心がけ、特設補充学習(SF, SA)で学習不振の生徒の改善を図る。
	●学力向上	○授業と家庭学習とのつながり	3冊のノートを徹底して、家庭学習習慣の定着を図る。	・生徒自身に学習ルールを作成させたり、点検させたりすることにより、自覚と啓発を促す。
	●学力向上	指導方法の工夫・改善	県学習状況調査や県教・県英テストの県平均以上をめざす。	・全教科で西部型授業の指導を徹底する。
	●学力向上	○ICT 利活用教育の推進	・ICTを活用した授業を全教科で実践する。	・研究授業時の指導案には活用について明記しより効果的な指導法を学ぶ。
	生徒指導	より良い人間関係づくり	学校が楽しいと感じている生徒の割合を90%以上にする。	・学級活動の授業や、よいことさがしにより、より良い人間関係を構築する。 ・アンガーマネジメント等について教師が人間関係づくりを学ぶ。
	●心の教育	豊かな心や生き方の指導	計画に沿った道徳の授業実践、生徒と職員の信頼関係づくりに努める。	・わたしたちの道徳や命の教育指導資料などを活用し、計画的に道徳の授業の充実を図る。 ・ふれあい道徳を通して家庭との連携を図る。
	●心の教育	教育相談の充実	生徒理解を深め、生徒及び保護者の支援に努める。	・職員研修を実施し、生徒及び教育相談についての理解を深める。生徒の情報交換を密にし、共通理解を図るとともに、SCやSSW、保護者との連携しながら支援を行う。
	●心の教育	読書習慣の定着	朝読書を継続し、週1冊を目標に本を読む。	・図書室の本の紹介を定期的に行うなどし、図書室の利用を呼びかける。 ・「家読」の読書活動を推進する。 ・「ぶっくん」の利用を呼びかける。
	●心の教育	○心の教育3セットの活用	他人への思いやり、気配りにあふれた「伊万里っ子しぐさ」を周知し、日常意識した生活を心がけさせる。「命の教育」資料集の活用を年間計画の中にきちんと位置づける。	・カレンダーを教室に掲げ、全校放送で紹介し定着を図る。 ・学校からの情報発信によって家庭への啓発をする。 ・学年会の折に資料集などの活用状況について確認する。
	●心の教育	「命の教育」の推進	「栗原史好先生命の文庫」の活用 11月2日を含む週「山代中・命と生き方を考える週間」への取組を図る。	・栗原史好先生「命の文庫」の本を充実させ、生徒へ紹介する。 ・「命と生き方を考える週間」への取り組みの充実を図る。
	●心の教育	ボランティア活動の推進	ボランティアの精神を涵養し、自主的に動ける態度を育てる。	駅舎清掃や、募金活動等のボランティア活動を行う。
	●○いじめの問題への対応	組織的、積極的な対応の推進	「いじめ」への対応についての研修の充実を図る。	生徒に対する密着指導を徹底し、またアンケートや教育相談の充実によって「いじめ」に対応する取組に全職員で取り組む。
	●健康・体づくり	○食育の充実	体験学習や年1回の教育講演会を通して、豊かな食生活を推進する。	保健体育・家庭科等で「食」の重要性を理解させるとともに、学活時間を利用し啓発に努める。
	●健康・体づくり	部活動の適正指導	生徒が楽しく活動するための環境を整え、活動時間を確保し、体罰による指導を行わない。	・充実した部活動を目指し、できるだけ顧問のついた状態で活動する。 ・部活動内の人間関係を良好にするよう努める。
	●健康・体づくり	モーニングストレッチの推進	朝の準備運動で体を目覚めさせ、体がだるかったり、疲れを感じたりする生徒を少なくする。	毎朝、2分間のモーニングストレッチを行う。
○特色ある学校づくり	立腰教育の実践	立腰教育を通して学習に向かう姿勢を正し、頑張りぬく心をもつ態度を育てる。	・毎日の放送時、全校へ「立腰」を呼びかける。 ・授業時に「立腰」を呼びかける。	
○特色ある学校づくり	子どもたちへの学習支援	生徒一人ひとりの能力を伸ばす教育活動を積極的に取り入れる。	特設補充の時間SA、夏季休業中の学習会、放課後補充学習等によって、生徒一人ひとりを伸ばす活動を行う。	

	学校行事	体育大会や文化祭などの学校行事の充実	生徒各自が自己存在感を持てるような手だてを行う。 行事に関するアンケート等において、肯定的にとらえる生徒の割合を90%以上にする。	生徒の自主的活動を取り入れ、活動時間の確保と適切なアドバイスを行い、発表に対して必要な体制を整える。
② 学校を開き、家庭・地域との連携を核に、信頼される学校づくりをすすめる				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	学校経営方針	教育方針の広報活動	生徒や保護者への周知を図る。周知率を80%以上にする。 回答を求める文書の回収率を90%以上にする。	ホームページ、学校便り、学年便り、学級便り、学校安心メール等で周知を図る。また、PTAの集会で折にふれ、方針を伝える。
	開かれた学校づくり	地域の方の学校行事への参加	授業参観、講演会、PTA活動等への参加を50%以上にする。	日程を早く知らせると共に、学級の役員さんに呼びかけてもらう。公民館やPTAOB会等に協力を要請し、町民への広報活動をする。
	○危機管理	○通学路の安全点検及び安全指導	・生徒の安全や交通事故防止、生活事故防止に努める。	・月1回の安全点検をしっかりと行う。避難訓練・交通安全教室等を通して、生徒に危険状況時の対処の方法を、確認させる。危機管理マニュアルを有効活用する。 ・生徒送り迎えの際の校内での交通ルールを明確にして徹底を図る。
	○危機管理	○食物アレルギー等への対応	・食物アレルギー等への対応についての理解の徹底を図る。	食物アレルギー等の指導についての研修を実施する。
	○小中連携の推進	3校教職員連絡会の活性化	3校職員の交流を深める。	研修会や研究会を合同で実施したり、お互いに授業参観や出前授業等で、学校を訪問したりする。
	○小中連携の推進	3校PTA連絡協議会の活性化	家庭学習に関する情報を共有する。	児童生徒の課題を明らかにし、3校PTA研修会で話し合い、取り組みの充実を図る。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○教職員全体の働き方改革に関する意識改革に資する具体的な目標を設定する。	・1週間に1日は部活動休業日を設ける。 ・平日の部活動の時間を短くし、退勤時間を早めるようにする。	・毎週、土・日のいずれかを部活動休業日とすることを徹底する。 ・平日の部活動時間を最長2時間とし、勤務時間後の仕事を早めに切り上げられるようにさせる。
教育活動	生徒指導	生活ルールの遵守	山代っ子の約束を意識した生活をさせる。	小中連携を密にし、生徒会、3校PTAと連携して、山代っ子の約束10箇条を意識させる。
	家庭教育力の向上	テレビ、ゲーム、ネットの時間制限	家庭学習や読書を推進することにより、テレビ、ゲーム、ネットの時間を制限させる。	・ノーテレビ、ノーゲームデーを推進する。家庭学習2時間の確保、読書習慣の定着等により、テレビやゲーム、ネットの時間を減らさせる。 ・伊万里市家庭教育宣言の推進を図る。
	家庭教育力の向上	家庭学習の質の向上	家庭学習平均80分(1年生)、90分(2年生)、100分(3年生)以上の生徒の割合を50%以上にする。	家庭学習時間確保とサイクル学習が機能しているかをアンケートによって検証する。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	性教育の推進	正しい知識の習得	保健の授業に加え、性に関する講演会や思春期教室を開催し、性に関する指導の充実を図る。	・学年や生徒の実態に応じた性に関する指導を行うことで、知識を深めさせる。 ・性に関する講演会を実施し、性についての正しい知識を得る。 ・思春期教室を開催し、性について理解を深めるとともに、正しい判断力を養う。
	人権・同和教育	「いじめ」をなくす風土づくり	様々な差別について学ばせ、差別を見抜き、差別に立ち向かう態度を養い、「いじめ」をなくす風土をつくる。	人権学習を計画的に実施する。各学年で指導案検討や授業参観を行う。
	人権・同和教育	不登校等の未然防止	生徒の悩みや変化を把握し、支援を行う。	欠席が増えた生徒や表情、言動が気になる生徒については、保護者と連携を図りながら、早期に対応策を講じ、支援する。
	生徒指導	ノーチャイムの推進	生徒も職員も、時計を見て2分前行動に努める。	・2分前行動を心がけ、時計を意識した生活をする。 ・授業始めを守るだけでなく、授業終りの時間もきちんと守る。
	生徒指導	無言清掃の実施	時間内は、無言で取り組み、周りに気を配りながら掃除に取り組む。	・掃除始りと終わりには学年で集まり、掃除への意識づけを図る。 ・評価をしていくことで無言での取り組みの徹底を図る。

●は共通評価項目のうち県の必須項目、○は市の共通評価項目